

敬悼録

七月

十四日 内神町 小山 保登 九十二歳
 十六日 宇治市 廣本 肇 八十五歳
 廿日 西谷町 齋藤 夕夕 百三歳
 廿日 焼山桜ヶ丘一 清水 正登 九十四歳
 廿日 西片山町 川口 タツ子 百三歳
 廿一日 東辰川町 廣本 文男 八十二歳
 廿二日 西辰川二 久保下 和雄 八十八歳
 廿四日 東辰川町 脇田 夕夕 八十九歳
 廿八日 西惣付町 船岡 茂子 九十一歳

八月

一日 畷原町 岡平 寛稜 八十六歳
 二日 上山田町 宮原 幸子 七十四歳

九月

六日 上山田町 金本 四郎 八十八歳
 八日 西谷町 北尾 ヒメ子 百三歳
 十四日 下山田町 折崎 アイコ 九十二歳
 (九月十四日現在 年齢は数え年・敬称略)

廣本文男さん

東辰川地区総代として、永年ご報謝くださいました。近年はご病気で、今回の西教寺修復委員は辞退されましたが、前回は九八七(昭和六十二年)の西教寺大修復には修復委員として活躍されました。

脇田夕夕さん

永年東辰川地区のお世話人としてご報謝くださいました。聴聞に熱心でいつもお寺でお会いしました。自宅の壁には西教寺の広報版をかけてくださり、法語や西教寺の情報伝達にご協力くださいました。

憲法九条を守る呉の集い

住職(岩崎正衛)が代表呼びかけ人の一人となつている「憲法九条を守る呉の集い」が、去る八月二十六日、警固屋公民館で行われました。約百八十名の参加者は、マンドリン演奏や菅原龍憲さんの講演に聞き入っていました。

憲法九条とは、国の「戦争放棄」に関する規定。次期首相本命と言

われている安倍官房長官は、改憲を最重要課題のひとつにあげて、必



菅原龍憲(すがわらりゅうけん)さん。島根県正蔵坊住職。真宗遺族会代表。靖国参拝違憲アジア訴訟や靖国合祀取り消し訴訟の原告団長。

ずやるぞと明言してしますが、いったいどこをどう変えようというのでしょうか。現憲法では、九条は「戦争放棄」というタイトルですが、新憲法草案ではそこが「安全保障」に変わっています。そして、条文も「戦力を保持しない」から「自衛軍を保持」とすると、「軍隊」を持つことになっていきます。これは「武力では決して平和は来ない」と考え、「戦争を放棄する」「戦力を持たない」国であった日本が、

「安全のためには武力は必要」と考え、「武力を行使する」国へと転換することを意味します。

特に、この「自衛軍」とは、「専守防衛」(よその国に出て行かない)軍隊」という意味では決してありません。「平和と安全を確保するために国際的に協調して行う活動」つまり、「他国に出て行ってアメリカ等の国々といっしよに平和のために武力を行使するぞ」と言っているのです。すなわち、九

条の改憲は、他国に出かけていって戦争をするためのものなのです。「自衛」「安全保障」とか「世界平和」といえば、良いことをしているように聞こえますが、六〇年前の戦争だって、同じ理由で「守る」ため「平和」のために行われた行為ではなかったのでしょうか。「平和」や「正義」を一方的に主張しつつ「武力行使」をするということは、される側から言えば「侵略」というのだと思います。

9条の会は、作家の大江健三郎さんから9名で結成され、その後全国で四千を超える九条の会ができました。そしてこの度、呉でも、大学教授、芸術家、宗教家、マスコミ、教員などさまざまな分野の方々が呼びかけ人となって九条を守る集

いが開かれたというわけですが。

講師の菅原さんは、遺族。ニューギニアで餓死した父をはじめ、無理やり日本兵にされ英霊として祀られている台湾人、軍事物資を運ばされ撃沈させられた疎開児童、みんな誤った国策による被害者であり悲惨な死。しかし靖国によって「悲惨な死」が「尊い死」にすりかえられると、遺族は国に対する怒りや悲しみをぶつけようがなくなる。さらに「尊い死」と国家に祀られることに充足感さえ抱いてしまう倒錯さえ起こる。悲惨を名譽に、名譽は「後に続け」となる。靖国神社は、戦争するための精神的動員体制の機軸。と話をされました。

ビルマの豎琴は音もなく

—ミャンマーのパゴダ巡り④ 齊藤 久仁子

幼児の化粧、タナカ

ミャンマーでは、顔や、なかにはむき出した手足にまで、おしろいを塗っている子どもに出会う。塗っていない子どもが珍しい。顔じゅう真っ白に塗っている子、一部だけ塗っている子、曲線や直線で模様を描いて

いる子、遊んでいる子もポーターや物売りをしている。これはつっぱっているのでも目立ちたがっているのでもない。スポーツの応援でもりあがっているのでは勿論ない。これは日焼け止めとして親が毎朝塗ってやるのだそ



うだ。男女ともにはある。中学生くらい以上の年令の子どもは塗っていない。初めて見た時は驚いたが、一部の人の一時的流行ではなく民族の伝統なのだ。あるお寺の門前市でガイドが「これタナカです。」と見せてくれたのは、なんと木片である。この木の皮を水の入った容器の底に荒砥を置いてすりおろしている、底のどろっとしたたまりを塗るのである。その木片やすり下ろした粉を売っている。型紙を使って模様を描くお洒落な人もいるという。

道を行く僧侶の数の多さ

首都ヤンゴンの北七十里の所にバゴという小さな町がある。十三世紀から十六世紀にかけてモン族の王都であった。

モン族という「悲劇の民族」という印象が記憶に新しい。インドシナ問題で新聞に現れる時のモン族は「ラオスの山岳民族」として報道される。ベトナム戦争中は米軍の先兵として北ベトナムやラオス共産勢力と戦って故郷に帰ることが出来なくなった。戦わせた米軍は負けたとたんアメリカに引き上げてしまった、最近もタイ側国境の難民キャンプにいるモン族のことが報道された。精霊信仰の儀式で